

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：鍵浦 文子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Brief HIV stigma scale for Japanese people living with HIV: validation and restructuring using questionnaire survey data 《筆頭論文》	共著	2019 年 10 月	AIDS care, 28;1-9.	アメリカで開発された HIV スティグマ尺度の日本語版を作成し、信頼性と妥当性の検証を行った。 Fumiko Kagiura, Teruhisa Fujii, Nobuko Kihana, Eiko Maruyama, Yuka Shimoji, Masayuki Kakehashi 担当：研究デザイン、データ収集、分析、論文執筆
2 (学術論文) Trends in CD4+ cell counts, viral load, treatment, testing history, and sociodemographic characteristics of newly diagnosed HIV patients in Osaka, Japan, from 2003 through 2017: a descriptive study 《筆頭 論文》	共著	2023 年 5 月	Journal of Epidemiology,33 (5), 256-261.	2003 年から 2017 年までに新たに HIV 感染症と診断された 2250 人の診療録を分析し、記述的研究を行った。その結果、新たに HIV に感染している人（未診断者を含め）は減少傾向にあることが推察された。 Fumiko Kagiura, Ryota Matsuyama, Dai Watanabe Yuuki Tsuchihashi , Kazuhiko Kanou, Takuri Takahashi, Yusuke Matsui, Masayuki Kakehashi, Tomimasa Sunagawa, Takuma Shirasaka 担当:分析、論文執筆
3 (学会発表) Psychosocial factors impacting non-retention in care among Japanese adults with HIV: Cross- sectional analysis using Elastic Net logistic regression	共著	2023 年 3 月	EAFONS 2023 (p.146)	2017 年から 2020 年に HIV 感染者に配布した質問紙調査のデータを使用し、HIV 感染者の受診中断の要因をエラスティックネット ロジスティック回帰分析を用いて分析した。433 人の回答者のうち、受診中断があったのが 34 人(7.9%)であった。受診中断に関連していたのは、スマートフォンでの受診日の管理をしていない、低い自尊感情、若年者、喫煙、薬物の使用、治療が開始されていない、精神科を受診していないことであった。モデルの AUC(Area Under Curve)は 0.924 であった。 Fumiko Kagiura, Kimiko Tagawa, Masayuki Kakehashi 担当：研究デザイン、データ収集、分析、ポスター作製
4 (学会発表) HIV 感染者を対象とした Unmet Needs に関する 研究の動向	単著	2023 年 12 月	第 37 回日本エイズ学会学術集会	日本の HIV 感染者のアンメットニーズは報告されていないため、国際誌の研究を調査した。2000 年から 2023 年 4 月までの論文 38 編から 22 編を分析し、最も多かったニーズは住宅、食事、精神的ケア、家族計画で、それぞれの割合は 12.1-58.8%、7.8-36.6%、9.5-24.8%、16.0-33.6%であった。先進国は生きるために必要な物、発展途上国は家族計画の調査が多かった。 担当：担当：研究デザイン、データ収集、分析、スライド作成

2024 年 5 月 14 日 現在